

## 自治会まちづくりミーティング（要旨）

- 1 自治会名称 鵜沼第2自治会連合会・陵南自治会連合会
- 2 日 時 令和4年7月7日（木）19時00分～20時30分
- 3 場 所 陵南福祉センター
- 4 出席者 連合会長及び自治会長 29名  
市長・都市建設部道路課長
- 5 内 容 ① 連合会長あいさつ  
② 市長あいさつ  
③ 提言による懇談  
④ 市政の説明（市長）  
⑤ 連合会長まとめのことば  
⑥ 市長まとめのことば
- 6 提 言 ① 航空機産業の歴史を活用した街の活性化  
② 高齢者への万歩計の配布  
③ かがみの通りの道路拡幅と21号線交差点改良

提言① 航空機産業の歴史を活用した街の活性化

<各務原2丁目西自治会長>

私の提言は「各務原市と航空とのつながりを活用して街の活性化を図る」というものです。

浜松・宮崎・宇都宮の人に「あなたの街は何の街ですか」と聞いたら多くの人  
が「餃子の街です」と答えると思います。

「各務原市は何の街ですか」と問われたときに皆さんはどうお答えになるでし

よう。

各務原市は良い所がたくさんありますので、1つに絞るのは難しいかもしれません。

各務原市のホームページを見ても「何々の街」という紹介はされていないし、シティプロモーション戦略を見ても良い所をまんべんなく紹介していくという戦略であると理解しています。それも一つの戦略ではありますが「宇都宮は餃子の街」のようなキャッチーなアピールもあっても良いのではないかと思います。

各務原は航空と深いつながりがあるのでそれを軸として「各務原は飛行機の街」というのも良いのではと思います。

各務原市と航空の歴史を改めて確認させていただきたいと思います。

まず、川崎重工をはじめとする航空関連会社が集まる航空産業都市です。

航空関連会社がただ集まっているだけではなくて、飛行場があって完成機を作ってそこで飛ばしているというところまで含めると日本でも特殊な街であると思います。

2番目として、各務原は現存する最古の飛行場であるということです。

1番最初に開設された飛行場は埼玉県所沢市です。1911年（明治44年）になると聞いていますが、現在は存在していません。2番目の各務原の飛行場は1917年大正6年の開設ですので、100年以上の歴史を持っています。

1番目がないという意味では日本で唯一無二の特徴を有すると考えます。

3番目としては、多くの飛行機が各務原で初飛行・試験飛行を行ったということです。

4番目は、航空自衛隊岐阜基地があること。現在の岐阜基地には日本で唯一の航空自衛隊の航空機や装備品の試験を行う「飛行開発実験団」及び航空機の部品を扱う「第二補給処」が存在しており、日本でも唯一の基地としての特色を有している。特に、飛行開発実験団は新造機の飛行試験を行うことから、3番目の特色を現在も継承しているということになります。

最後に岐阜かかみがはら航空宇宙博物館です。

3番目4番目の歴史を踏まえて発展途上の時の試験機だったり試作機だったりといったものを中心に収蔵・展示が行われており、日本で唯一の特徴を有している博物館です。

これらをまとめると、1番目から4番目までの日本でも有数の貴重な航空に関するソフトというものを各務原は持っており、5番目の博物館というハードでこれを皆さんにお知らせすることができるという非常に素晴らしい素地を持っているということができると思います。

これだけの特徴ある歴史を有していながら現在はこれらのアピールがばらばらであったり、されていなかったりと残念な状況になっているように思います。

1番目に関しては川崎重工を中心としたの「ものづくり」といった切り口で紹介されることが多いですし、2番目3番目は各務原の歴史といったものに埋もれてしまう、4番めについてはそもそも紹介されていないことが多い。5番の航空宇宙博物館についてはコンセプトが「日本の航空宇宙技術の歴史」となっており「各務原」が前面に押し出されていないように感じます。

これは非常にもったいないと思います。「各務原市は飛行機の街」を軸とした場合、これらが有機的につながってアピール度が非常に増すのではないかと考えます。更に、これらを支えてきた人々そしてその家族がいるわけで、その人たちがアピールの強力な応援団になってくれると思います。郷土の特徴をアピールするという点については日本全国の市町村が、その独自性を出そうと苦労している中、これだけの資源をもっと活用すべきであると考えます。

各務原は良いところがいっぱいあるので航空機1本に絞るのは難しいかと思いますが、その点について市長のお考えをお聞かせ願えればと思います。

<市長>

市役所や航空自衛隊岐阜基地のある各務原台地は、大正6年に陸軍が飛行場を

開設したことをきっかけに、航空機産業のまちへ発展しました。

陸軍の飛行場があったことにより、鉄道も引かれ、川崎航空機工業の大規模移転もあり、この地で航空機の先進的な開発が行われました。

各務原飛行場で初飛行した航空機は、確認できているものだけで75機種を数えます。実に日本で作られた機体の約8割が各務原飛行場で初飛行しているということになります。

歴史民俗資料館が刊行した『各務原市の戦前・戦中・戦後史』や『各務ヶ原飛行場100年史』では、栗屋会長のご指摘にあるような、本市と航空機産業の歴史を掘り下げて記述しました。この2冊の刊行物は、人気があつてすぐ完売してしまいましたが、今は中央図書館で閲覧することができます。また刊行と同時に、平成27年度に「戦後70年 明日の各務原へ」と題した企画展、平成29年度には「各務ヶ原飛行場100周年」と題したパネル展を開催しています。

また、100周年の時には、航空自衛隊岐阜基地の協力も得て、滑走路を走る「シティマラソン」を企画させていただきました。

市内の既存施設や史跡を結び付けて博物館的な活動を行うスマートミュージアム事業では、川島会館4階の木曾川文化史料館に各務原空襲資料室を設け、航空機産業の発展と切り離すことのできない太平洋戦争に関する資料を常設展示しています。

岐阜かかみがはら航空宇宙博物館では、平成29年のリニューアルの際、地形模型と画像を組み合わせた「各務原の航空機産業とまちの発展」と題した展示、川崎航空機が開発・生産した、当時日本唯一の量産型液冷戦闘機飛燕（キ61）の実機展示などを新たに加え、本市独自の航空機産業の歴史と発展をアピールしているところです。

今後、さらに各務原市と航空機の歴史を市民の皆さまへ、そして他県の皆さまへ広く知っていただくために、市のホームページに紹介するコーナーを設けます。また、近代だけではなく、他の時代についても、多角的な観点から歴史的資

源を調査・研究し、各務原市の注目すべき風土や個性を市民の皆さまの誇りとともに、まちの活性化に繋げられるよう事業を進めていきますので、どうぞご期待ください。

## 提言② 高齢者への万歩計の配布について

<各務原2丁目南自治会長>

私の提言は「高齢者の方に万歩計を配る」というものです。

最近、高齢者の方の肥満化が進んでいて、その原因として様々なことがあげられますが、そのうちの1つとして、外出する理由がなくて、外出をしなくなるが故に歩かなくなり、足腰が弱ってしまうことがあります。

それを少しでも解消するために、万歩計を配ることで歩くことに意味ができ、歩けば歩くほどそれが数値化されるため、歩く時間も距離も必然的に増えると思います。そのため、万歩計を配ることで高齢者の肥満解消にもつながると思います。

また、肥満解消により介護をする若者の負担も減ると思います。そのため、メリットはとても大きいと思います。

<市長>

本市では、高齢者が最期まで住み慣れた地域で、健やかにいきいきと過ごすことができるよう、フレイルに着目した健康寿命延伸のための事業に取り組んでいます。令和3年度には、高齢福祉課内に「健康長寿係」を新設し、「フレイル予防で健康長寿」を合言葉に様々なフレイル予防事業を展開しているところです。

歩くことは、高齢者に限らず誰もが手軽に始めることが出来て、肥満解消やフレイル予防への効果が期待できます。ご提案いただいた万歩計についても、記録された歩数により運動量を把握するなど、ウォーキング習慣の定着には有効な器

具の一つであると認識しております。

しかしながら、現在高齢者の所有率が年々上昇しているスマートフォンには歩数計測機能が備わっているものがほとんどであります。なお、令和3年度に高齢福祉課にて行ったアンケート調査の結果から、7割以上の高齢者がスマートフォンを所有していることが分かりました。

また、付加機能として、健康管理に必要な消費カロリーや体重、血圧などを記録できたり、GPS機能を利用すれば歩いた道のりや場所が記録されるなど、より楽しく持続的に活用することが可能であるため、万歩計よりもスマートフォンを活用した事業を進めていきたいと考えています。

内容としては、今年度新規事業として、「スマートフォンアプリを使ったウォーキングフレイル予防事業」の実施を予定しています。

概要は、市内在住の高齢者（65歳以上）が各々のスマートフォンアプリを使用してウォーキングを実施し、目標歩数を達成された方に景品を進呈するというものです。景品には、市内の特産品を用意しております。

先ほどスマートフォンの所有率が7割程度という話をさせていただきましたが、日本政府もDXを推進しており、スマートフォンに代えていただくきっかけというのものも、このウォーキングフレイル予防事業の中で推奨していきたいと思っております。

そこで、事業の開始前には市内6箇所にて、使用するウォーキングアプリの操作説明を含めた「高齢者向けスマートフォン教室」の開催も予定しています。

これからは人生100年時代が到来すると言われております。是非皆さま、本市のフレイル予防への取り組みをきっかけにいただき、「健康」で長生きできるように頑張ってくださいと思っています。

フレイル予防事業としては、ウォーキングのほかに、ボランティアハウスなどの高齢者の集まりの場で医療専門職がフレイル状態の測定や健康教育を行う「通いの場におけるフレイルチェック事業」も行っておりますので、そのような機会

を通じて、フレイル予防に関心を持っていただきたいと思います。

### 提言③ かかみの通りの道路拡幅と21号線交差点改良

<朝日4丁目西自治会長>

自分は、昨年まで孫の送り迎えを行ってござりまして、かかみの通りをよく利用してござりました。

その中で、「狭くて危険な道」「時間的に計画ができない道」などの問題をいくつか感じてござりました。

国道21号線の山の前の信号からにんじん通りまでの間ですが、2か所の踏切があり、車道と歩道の区別もなく、道幅も4mと少々狭い状況です。通行車両が多く、大型車が通行するなど、いろいろな要素が絡んでくるので、混雑するのは当然と思っております。

今回このような機会がございましたので、提言させていただきます。

電車は、1時間に上下合わせて13～14本くらい通過し、遮断機の遮断時間も1時間に15分強あるようです。

この踏切遮断時間の長さ、車道歩道の未分離、道幅の狭さ、交通量の多さと大型車両の通過、21号信号機の右折レーン未整備等の問題が相まって、どうしても渋滞が起きてしまう状況となっております。

かかみの通りの安全と渋滞緩和について、将来に向けて市の計画や構想などがありましたらお聞かせ願いたいと思っております。

安全・安心・安定な通行のできる通りになることを期待し、地区の住民を代表してお聞きします。

<市長>

ご提案いただいた「かかみの通り」の道路拡幅と21号線交差点改良について

て、お答えします。

この道路は、国道21号交差点から芋ヶ瀬駅を通り、主要地方道芋島鵜沼線へと接続する市道です。

この市道の国道21号との交差点には、右折車線がなく慢性的に渋滞が発生しています。

また、駅へと繋がる地域の主要な道路にも関わらず、道路幅が狭く、車両のすれ違いが困難であり、駅へ向かう歩行者の安全確保についても課題があります。

このようなことから、平成30年度にこの道路の拡幅改良に着手し、国道21号との交差点には右折車線を設置し、国道21号交差点からにんじん通りまでの区間において片側歩道付きの2車線道路となるよう整備します。

道路工事や踏切工事が始まりますと通行止め等、長期に亘り交通規制を行うため、その間皆様には大変ご不便をお掛けしますがご理解をいただきたいと思えます。

現在、地域住民の皆様との合意形成を図りながら、用地交渉を進めており、令和6年度から工事に着手する予定となっておりますのでよろしくお願いいたします。

次に、地域の皆様が関心を持たれている（仮称）新愛岐大橋について、あわせてお話をさせていただきたいと思えます。現在の愛岐大橋は51年がたち、慢性的な渋滞の状況にありますことから、以前より国や県に働きかけて、岐阜県と愛知県により新しい橋を架けていただくということになっております。

各務原市と愛知県扶桑町を結ぶ（仮称）新愛岐大橋は、岐阜県施工により、橋梁の基礎である橋脚を岐阜県側から順次、建設しているところです。

今年度の工事で、岐阜県側の橋脚は全て施工され、引き続き、愛知県側の橋脚施工を進めていくものと聞いておりますが、開通まではまだ時間がかかると思えます。

本市としましても、周辺5市2町から成る協議会において、国や県に対し、



(仮称) 新愛岐大橋や新たな南北道路の整備促進や財源の確保を毎年要望しており、今後も引き続き、要望活動を実践して参ります。

今後は、岐阜県が施工している一般県道扶桑各務原線の延伸に合わせ、交通量の増加が見込まれるため、「かかみの通り」との接続も視野に入れながら、広域的な観点から交通の円滑化を目指していきたいと考えております。